

育成年代男子ハンドボール選手における試合中の Activity Profile に関する研究

順天堂大学大学院
スポーツ健康科学研究科
学籍番号：4119004
氏名：内田拓夢

【目的】

本研究は、育成年代男子ハンドボール選手における Activity Profile を作成し、高校年代と大学年代の男子ハンドボール選手の動きの違いを明らかにすることを目的とした。

【方法】

対象は、関東学生男子ハンドボールリーグ 1 部に所属する大学生選手 15 名（年齢： 19.8 ± 1.4 歳，身長： 178.3 ± 5.6 cm，体重： 74.6 ± 7.6 kg）を大学生群，全国大会出場高校の高校生選手 17 名を（年齢： 16.4 ± 1.0 歳，身長： 171.0 ± 5.6 cm，体重： 67.9 ± 7.0 kg）を高校生群とした。

【結果】

本研究の結果において、大学生選手で試合中の動きに減少傾向が見られた。加えて、高校生選手よりも大学生選手の方が試合中の動きを多い頻度で行っていた。Back のポジションの選手では、高校生選手よりも大学生選手の方が試合中の動きを多い頻度で行っていた。

【結論】

育成年代男子ハンドボール選手において、段階的な指導を行う際に、高校生選手は、強度の高い動きを可能とする筋力の準備の重要性が示唆された。